

# 中学 1 年 3 組 美術科学習指導案

指導者 錦 織 秀 行

視覚情報をたよりに完成作品から形や色、使われている技法、表現方法や内容などを読み取り、グループや学級全体で話し合う活動を行ったことは、これからの作品制作に対して見通しをもったり、デザインに対する意欲化を図ったりすることに対して有効であったか。

## 1 題 材 名 出会うの学級パネルをつくろう

## 2 題材のねらい

1年生のスタートに当たり、個々に作成した自己PR（紹介）カードを一つの掲示物として全員で協力しながらつくり上げ、かかわり合いの中から発想や構想を広げたり深めたりしながら、感性を働かせて造形表現を追求し、作品制作することができる。

## 3 授業の構想

(1) 本学級は、学習に対して意欲的に取り組もうとする生徒が多く、前向きな態度で制作を行うことができる。本題材においても、基礎・基本を身に付けながら、自分なりの表現で意欲的に作品制作に取り組む姿が見られると考える。しかし、事前調査をしてみると、「下描きはうまくできても、着色がうまくできない」や「どんな色で塗ったらいいかわからない」「アイデアが決まるまでに時間がかかる」など、苦手意識を抱いている生徒も少なくない。

中学生になるとこれまで図画工作で学んだ内容を生かした作品制作に加え、新たな技法を習得したり、様々な道具や用具、素材を扱いながら作品を制作したりすることになる。中学生になって本格的に学習していく内容の一つにデザインが挙げられる。これまでは水彩絵の具による着色を中心に学習しており、ポスターカラーやアクリルといった専門的な絵の具は初めて扱う生徒がほとんどである。絵の具の性質はもちろんだが、使用方法にも違いがあり、それによって戸惑ったり苦手意識を抱いたりする生徒もいるのが現状である。特に着色をする際、デザインではムラがなく均一に着色することが求められるが、図画工作で学習してきた「水を多量に混ぜて着色する」ことに慣れている生徒には、困難に感じられる。

(2) そこで本題材では、道具や用具を使用して、様々な表現を学習していく。ここで基礎的な技術を習得することにより、今後の作品制作に十分生かしていけると考える。デザインによる作品制作を通して基礎・基本をしっかり身に付け、制作する楽しさや喜びを抱かせ、完成した作品のよさや美しさ、素晴らしいさなどを感じさせたい。また、グループや学級全体の話し合いを盛り込み、かかわり合いの中から発想や構想を広げたり深めたりしながら、感性を働かせて造形表現を追求し、作品制作にいかせるように指導していきたい。

(3) 本題材では、デザインの学習を通して新たに学習するレタリングや色に関する決まり、着色方法、道具や用具の扱い方などを習得するとともに、それぞれポイントとなるところでグループや学級全体での学び合いを取り入れ、かかわり合いながら、お互いに高め合って作品制作を行ったり、鑑賞したりすることをねらいとしている。

本題材では様々な要素を含めた学習を展開していき、最終的に全ての学習内容を詰め込んだ作品が完成するように組み立てている。その中で、色に関する学習をする際に、グループでかかわり合いながら色相環を作成する場面がある。ここでは対象となるものから感じ取って作成することにより、思考力を

働かせたり、判断力を高めたりできると考えている。また、グループや学級全体での鑑賞の場面がいくつかあるが、直感的に感じたり、お互いに話し合ったりする中で、思考力や判断力が育成され、教科の特性として最も強く主張される表現力にもつながっていくものとする。具体的には、形や色彩、表現方法などによる造形言語で仲間に伝えることができたり、仲間の表現からよさや素晴らしさを言葉や文章で伝えることができたりすることを目指している。そのために教師側から具体的な言葉がけや掘り下げなどはたらきかけをしていきたい。そして、表したいイメージをもとに、形や色彩、表現方法などの性質やそれがもたらす効果について考えることによって、構成や配色などで創意工夫・試行錯誤を繰り返す中で判断し、自分の思いを表現（造形言語）に託して仲間に伝える取組を通して、思考力・判断力・表現力を高めていくことができるのではないかと考える。

#### 4 展開計画（全15時間 本時7/15）

次	主な学習	時	具体的な学習・内容（◇印は、学び合い）
1	【レタリング①】 ・レタリングについて理解する。 ・レタリングする。	1	・資料をもとに、明朝体とゴシック体の特徴について理解する。 ・「永」の文字を明朝体とゴシック体それぞれでレタリングする。
2	【レタリング②】 ・自分の名前をレタリングする。	2・3	・自分の名前に使われている漢字やひらがなを資料から探し、そのうちの一文字を明朝体またはゴシック体でレタリングする。
3	【色の整理】 ・色について理解する。 ・グループで話し合う。	4	・有彩色と無彩色の違いや色料の三原色、色光の三原色、またそれらを用いた混色について学習する。 ◇色相環についてグループで話し合い、カラーカードを並び替えて色の違いについて理解する。
4	【色の足し算】 ・初めて使うアクリルガッシュで着色の練習をする。	5	・色料の三原色を混色した「色の足し算」をスケッチブックに書いた一辺4cmの枠に着色する。例) 赤+青=紫 ※紫は実際に赤と青を混ぜてできたものを着色する。 ・水彩絵の具との違いを理解し、混ぜる水の量が多いとにじんだりムラになったりすること、水の量が少ないとかすれることなどを意識して着色する。
5	【技法の習得】 ・グラデーション ・スパッタリング ・吹き流し	6	・基本的な技法であるグラデーション、スパッタリング、吹き流しを習得し、今後の作品制作に活用する。 ・スパッタリングは金網とブラシ（刷毛）、吹き流しにはストローなど、必要な道具を正しく使えるように練習する。
6	【グループ鑑賞】 ・昨年度の作品を鑑賞し、グループで話し合う。 ・自己PRカードの形を決める。	⑦	・昨年度に制作された「出会いの学級パネル」を個人で鑑賞し、作品の特徴や制作条件など、気付いたことをメモする。 ◇作品についてグループで話し合い、作品の特徴を理解する。 ◇それぞれのグループでまとめた意見を学級全体の場で発表し合い、パネル貼付の自己PRカードの制作条件や多様な表現を理解する。 ◇学級全体の共通した自己PRカードの形状を話し合いで決定する。
7	【アイデアスケッチ】 ・自己PRカードのアイデアスケッチ	8	・第6次で決定した形に①自分の名前一文字、②自分の好きなもの・こと、③第5次で習得した技法を取り入れて作品を制作するためのアイデアスケッチをする。
8	【トレース・下描き】 ・自分の名前の一文字をトレースする。 ・ケント紙に下描きする。	9	・トレーシングペーパーを利用して第2次でレタリングした文字をケント紙にトレースする。 ・アイデアスケッチをもとに、ケント紙に下描きする。
9	【着色】 ・アクリルガッシュで着色する。	10～13	・アクリルガッシュの特徴を生かしながら着色する（第4次参考）。 ・着色する順番を意識して着色する（背景から前景にかけて順番に着色） ・第5次で習得した技法をうまく生かして着色する。
10	【完成作品の鑑賞】 ・グループ鑑賞 ・学級全体で鑑賞 ・振り返り	14	・グループ（5～6人）で鑑賞し合い、メッセージを交換する（発表者の作品のよいところを見つけてメッセージを書く）。 ◇他のグループにも紹介したい作品を各グループで選び、学級全体の場で発表する。 ・自己PRカードの制作を振り返り、プリントにまとめる。
11	【パネルに貼り付け・完成】	15	・B1サイズのパネル2枚に完成した自己PRカードを貼り付ける。 ・学級のスローガンや装飾を施し、完成。

## 5 本時の学習

### (1) ねらい

昨年度の出会いの学級パネル（自己PRカード）について、グループで話し合いながら、作品の特徴や制作条件を分析し、その魅力やよさを理解することができる。

### (2) 展開

学習場面と子どもの取組 (◎は、学びをいかしている子どもの姿)	教師の支援と願い・評価
1. これまでの過程について振り返る。 ・レタリングや色、技法について学習した。  2. 本時の活動の目標を確認し、見通しをもつ。	・本題材の過程について簡単に振り返り、学習内容を確認する。  ・本時の学習に見通しがもてるように、目標を提示する。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">             作品の特徴や制作条件をグループで分析し合おう！           </div>	
3. 昨年度制作された「出会いの学級パネル」を個人で鑑賞し、作品の特徴や制作条件など、気付いたことをメモする。 ・作品の形がみんな同じだ。 ・レタリングが使われているぞ。  4. 作品についてグループで話し合い、作品の特徴や制作条件をホワイトボードにまとめる。  5. それぞれのグループでまとめた意見を学級全体の場で発表し合い、作品の制作条件や多様な表現を理解する。 ◎そういえばどの作品にも習った技法が使われているな。 ◎レタリングは明朝体とゴシック体のどちらかを使っているぞ。	・イーゼルに設置したパネルを教室4か所に準備し、鑑賞時に提示する。 ・メモを取りながら、パネル全体および作品の両面から鑑賞するように指示する。  ・3～4人グループで作品の特徴や制作条件について話し合い、意見をホワイトボードに集約させる。 ・グループでの活動では、きちんと伝えることができているか価値付けながら机間指導を行う。また、活動の様子を観察し、グループごとの内容を把握しておく。  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p style="text-align: center;">評価の観点（発想や構想の能力）</p> <p style="text-align: center;">自分が作品から分析した結果をグループの友だちに伝えている。</p> <p style="text-align: center;">【評価方法 発言・ワークシート】</p> <p><b>支援</b></p> <p>作品の特徴や制作条件について、例を示しながら内容が伝わりやすいように支援する。</p> </div>
6. 共通した作品の形状を学級全体の場で話し合い、決定する。   7. 本時を振り返り、ワークシートにまとめる。 ・いろいろな条件で作品が作られていたな。 ◎アイデアがよかったので自分の作品にも取り入れてみよう。	・グループで集約した意見を全体に提示しやすいように、スクリーンに映しながら発表させる。 ・グループの話し合いによって出た形状の案をホワイトボードにまとめ、全体の場で決定する。  ・本時の学習について、参考になったこと、気付いたこと、深まったことなどをワークシートに記入するよう声を掛ける。

### (3) 思考力・判断力・表現力の評価

評価基準	A	B	C
	これまでの学習と関連付けて、自分が作品から分析した結果を具体的にグループの友だちに伝えている。	自分が作品から分析した結果をグループの友だちに伝えている。	分析の視点が見付からず、グループの友だちに少ししか伝えられていない。